

富士山麓に遊ぶ

＜静岡県富士山世界遺産センター 企画総務課 教育普及班 主幹 山崎 喜之＞

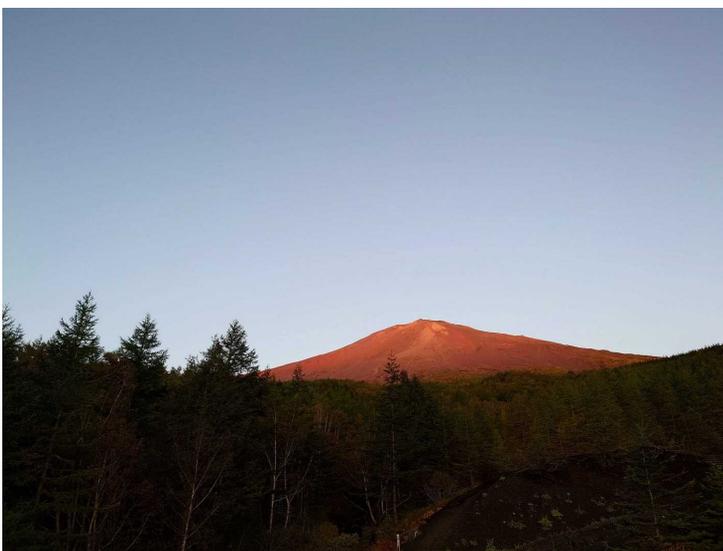
静岡県富士山世界遺産センターに着任して、3年目を迎える。これまで、富士山麓（駿東郡小山町）で生活しながら、「富士山」に積極的に関わることはなかった。あまりに富士山を近くに感じすぎていたせいかな……。

静岡県富士山世界遺産センターに着任し、出前講座をはじめ世界文化遺産・富士山について語らねばならない機会が激増した。また、富士山について様々な質問（世界遺産登録時の推薦書の在りかから、なぜ富士山が青く見えるのか、など）を受けることも増えた。自分の知識不足、経験不足を改めて痛感し、様々な情報を漁った。さらに「富士山を実感しないと」と、体力維持も兼ね、機会があれば、富士山・富士山麓、富士山周辺の山々を自分の足で歩くことに決め、富士山と向き合う時間を多くつくるようになった。

電話で受けた質問で一番印象に残っているものは、「関西から新婚旅行で御殿場に来ている。富士山で日の出を見たいがどこが一番良いか？」という質問である。10月で閉山期間中であつたが、登山口までの道路はまだ閉鎖されていない期間。このときは即座に「須走口五合目」と加えて「日の出の時間は朝5時くらい。朝焼けに染まる赤富士も見られる。」と答えた。電話口で聞いた当日、私も休みの日であつたので、1人早朝、須走口五合目の駐車場まで行ってみた。ちらほら集まる観光客に囲まれながら、関西弁が聞こえてくるか、内心ドキドキしながら待ったが、関西弁の新婚旅行らしい旅行者にはついに会えず。ただ、朝焼けの富士山は美しかった。

富士山に行くにしても基本的に日帰りである。休みの機会が合えば、我が子（小4、中1）も山行きに同行してくれる。開山前の5月連休前後には、マイカー規制されていない須走口五合目まで、車で行き「まぼろしの滝」がどう“まぼろし”なのかを見に行った。一年間の一時期、さらに1日のうちでもだいたい午後にはしか現れない、雪解け水からなる滝の姿を写真に収めた。子どもにとっては、山道ですれ違う人や、山小屋の人たちがみんな挨拶をしてくれたり、励ましの声をかけたりしてくれるのが嬉しい様子。特に小4は今年の夏に買った「金剛杖」を大事にしている。杖に山小屋で押しってもらう「焼き印」の風習・文化に面白みを感じている。登山口や山小屋ごとに違った焼き印を押してくれ、その年の干支がはいったものもある。それが金剛杖に増えていく。彼の金剛杖には富士山御殿場口、須走口、富士宮口の各所5、6合目の焼き印がたくさん押されている。「日帰り」で山小屋に寄りつつ歩くハイキングでコツコツ集めたものだ。ついには彼の目標は山頂までの焼き印をすべて押しってもらうこと、になった。いつそのチャレンジも達成できることか？

登山で日本一の富士山山頂を目指し、厳しさに触れ、克服することも魅力だが、登山口・森林限界付近でも富士山の魅力を味わうことは十分にできる。これから身の丈にあった富士山との付き合い方を模索しながら、富士山をより「実感」していきたいし、世界文化遺産の他にも登山、自然、火山（防災）など、話の切り口を増やし、発信していきたい。



須走口の赤富士（筆者撮影）



焼き印（筆者撮影）